

トマトすすかび病

【学名：*Pseudocercospora fuligena* (Roldan) Deighton】



写真1 葉表の様子



写真2 葉裏の様子

【被害と発生生態】

- ・発生部位…主に葉
- ・発生好適条件…菌の生育適温は26～28℃で、多湿時の真夏から秋にかけて発生しやすい病気です。

【見分け方】

- ・初期病斑は葉かび病と似ています。病斑のステージによっては、肉眼で見分けがつきにくく、明確に区別するには顕微鏡で観察する必要があります。
- ・初期は、葉裏に不明瞭な淡黄緑色の病斑が現れ、次第に灰色褐色の粉状のカビが生じます。病斑が拡大すると、円形または葉脈に囲まれた不整形病斑となり、灰褐色から黒褐色に変化します。
- ・葉かび病よりも、高温期に発生します。葉かび病に比べ、上位葉への進展が少ない特徴があります。

【対策】

- ・多湿にならないよう、十分に換気をしてください。ハウスサイドのみでなく、天窗の換気にも努めましょう。
- ・過度な灌水や密植を避けてください。
- ・施設栽培では、発病前から予防的に薬剤散布を行ってください。

参考文献

原色病害虫診断防除編2—① 野菜・果菜 ナス科/その他, 農山漁村文化協会